

2021年3月5日

各位

会社名 株式会社 アイスコ  
代表者名 代表取締役社長 相原 貴久  
(コード番号：7698 東証 JASDAQ)  
問合せ先 取締役 CFO 永野 泰敬  
(TEL. 045-811-1302)

## 2022年3月期の業績予想について

2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)における当社の業績予想は、次のとおりであります。

【個別】

(単位：百万円・%)

項目	2022年3月期 (予想)			2021年3月期 (見込)			2020年3月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率	
売上高	41,993	100.0	4.4	40,231	100.0	9.5	36,728	100.0
営業利益	500	1.2	△28.7	701	1.7	382.9	145	0.4
経常利益	539	1.3	△29.4	764	1.9	260.0	212	0.6
当期純利益	377	0.9	△22.3	485	1.2	236.1	144	0.4
1株当たり 当期純利益	207円31銭			302円53銭			90円00銭	
1株当たり 配当金	未定(注)4			未定(注)4			250円00銭 (16円67銭)	

(注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりません。

2. 2020年3月期(実績)及び2021年3月期(見込)の1株当たり当期純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。2022年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は公募予定株式数(217,500株)を含めた予定期中平均発行済株式数により算出しております。

3. 2020年11月1日付で、普通株式1株につき15株の株式分割を行っております。上記では、2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算出しております。また、2020年3月期(実績)の1株当たり配当金については、当該株式分割を考慮した数値を( )内に記載しております。

4. 当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。2021年3月期(見込)および2022年3月期(予想)については配当を予定しておりますが、具体的な配当金については現時点では未定であります。

ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2021年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積り、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## 【業績見通しの策定根拠】

### 1. 全体の見直し

当社は、「I Care Everybody Company ～あらゆる人々に慈しみの心をもって接する企業でありたい～」という企業理念を掲げ、アイスクリーム・冷凍食品の卸売業を行うフローゼン事業、食品スーパーマーケットの運営を行うスーパーマーケット事業を通して、食を通じた社会貢献を目標に、常にお客様に喜んでいただくことを目指して事業を行っております。

フローゼン事業は、市場が拡大傾向にあるアイスクリーム及び冷凍食品を主に取り扱う卸売業を行っており、関東及び東海エリアを中心に配送拠点 13 カ所、配送用トラック約 300 台を所有し、大手ドラッグストアやディスカウントストアをはじめとする小売りチェーン店等へ販売する事業を展開しております。

スーパーマーケット事業は、神奈川県を中心に「スーパー生鮮館 TAIGA」を 8 店舗、テナントとして 2 店舗展開しております。

当社のフローゼン事業における経営環境は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、緊急事態宣言に伴う外出自粛期間において家庭用冷凍食品の市場が伸長するなど、内食需要が伸長すると考えております。一方のスーパーマーケット事業においては、2020 年 4 月より新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、一時的な需要が増加したことや、来店者過密防止のためチラシ等の販売促進活動を一部制限した結果、広告宣伝費等の販売費及び一般管理費が減少しておりますが、徐々に需要が落ち着いてきたことや、今後の景気の先行きの不透明感から、節約志向が広がるなど、依然として厳しい経営環境を見込んでおります。

このような状況のもと、2022 年 3 月期の業績予想につきましては、売上高 41,993 百万円（前期比 4.4%増）、営業利益 500 百万円（前期比 28.7%減）、経常利益 539 百万円（前期比 29.4%減）、当期純利益 377 百万円（前期比 22.3%減）を見込んでおります。

### 2. 業績予想の前提条件

#### (1) 売上高

##### a. フローゼン事業

既存の得意先については、既存店については前年の実績をもとにアイスクリーム及び冷凍食品メーカーの市況予測を織り込んで算出し、新規に出店が予想される店舗については、公表されている出店計画等をもとに、既存店の 1 店舗あたりの平均売上を乗じて売上を算出してしております。また、新規の得意先については、営業の状況を見ながら、新たに受注できる見通しが立った時点で新規の得意先の販売データ等を用いて売上予算を見込んでおります。

2022 年 3 月期のフローゼン事業においては、北関東を中心に得意先の出店が見込まれることや、冷凍食品の市場拡大に伴う売上の増加が見込まれております。

以上により、売上高は 33,209 百万円（前期比 6.8%増）を見込んでおります。

##### b. スーパーマーケット事業

店舗売上については、過去の推移や外部環境を考慮し、店舗ごとの商品カテゴリーごとに想定客数と客単価を月別に算出し、売上を算出してしております。また、新規出店または既存店の退店の確度が高いと判断した場合には、これらの 1 店舗当たりの損益を調整して決定しておりますが、2022 年 3 月期においては出店及び退店は見込んでおりません。

2021 年 3 月期のスーパーマーケット事業においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、いわゆる「巣ごもり消費」による内食需要が増加し、特に当社が強みとする生鮮 3 品（青果・鮮魚・精肉）の売上が増加いたしました。なお 2022 年 3 月期においては会計方針の変更に伴い総額表示していたテナント売上が純額表示に変更されるため、売上高が減少すると見込んでおります。

以上により、売上高は 9,022 百万円（前期比 3.8%減）を見込んでおります。

#### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2021 年 3 月 5 日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

## (2) 売上総利益

### a. フローズン事業

売上総利益につきましては、得意先別及びカテゴリー別の売上高に、得意先別及びカテゴリー別の売上総利益率を乗じて算出しております。得意先別及びカテゴリー別の売上総利益率は、前年の売上総利益率の実績をもとに、原価交渉による売上総利益率の増減を織り込んで算定しております。

2022年3月期の売上総利益率は、得意先及びカテゴリー別の売上高の構成比の変化により、前年比0.3ポイントの下落を見込んでおります。

以上により、売上総利益は5,264百万円（前期比5.2%増）を見込んでおります。

### b. スーパーマーケット事業

売上総利益については、店別及びカテゴリー別の売上総利益率の前年実績を店別及びカテゴリー別の売上に乗じて算出しております。

2021年3月期のスーパーマーケット事業につきましては、来店者過密防止のためチラシ等の販売促進活動を一部制限したことから値引き販売が減少した結果、売上総利益率が上昇しております。2022年3月期は会計方針の変更に伴い総額表示していたテナント売上が純額表示に変更されるため、売上高の減少を見込んでおり、売上総利益率は前年比0.9ポイントの上昇を見込んでおります。

以上により、売上総利益は2,363百万円（前期比1.8%減）を見込んでおります。

## (3) 販売費及び一般管理費

販管費及び一般管理費については、個別の費用を積み上げることで算定しております。

人件費は、フローズン事業における売上拡大のための配送員を中心に増員する予定であり、前期比で5%程度増加する見通しとなっております。

広告宣伝費は、2021年3月期において来店者過密防止のために抑制していたチラシ等の販売促進活動を再開することから、前期比で70%程度増加する見込みであります。

以上より、販売費及び一般管理費は7,127百万円（前期比6.2%増）を見込んでおります。

## (4) 営業利益

以上の結果、2022年3月期における営業利益は500百万円（前期比28.7%減）を見込んでおります。

## (5) 営業外損益

営業外収益は2021年3月期に計上した補助金収入27百万円が減少する他、主に預金利息などの受取利息や、賃貸不動産から発生する不動産賃貸料等により、80百万円（前期比33.2%減）を見込んでおります。

営業外費用は主に借入金利息により41百万円（前期比28.1%減）を見込んでおります。

## (6) 経常利益

以上の結果、2022年3月期における経常利益は539百万円（前期比29.4%減）を見込んでおります。

## (7) 特別損益

特別損益については、特段見込んでいる事項はありません。

## (8) 当期純利益

### ご注意：

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2021年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」（及び訂正事項分）は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。

税引前当期純利益539百万円より法人税等を差し引き、当期純利益は377百万円(前期比22.3%減)を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、経営環境の変化等の様々な要因によって異なる場合があります。

**ご注意：**

この文章は一般に公表するための記者発表文であり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘又はそれに類する行為のために作成されたものではありません。2021年3月5日の当社取締役会において決議された当社普通株式の募集及び売出しへの投資判断を行うに際しては、必ず当社が作成する「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)をご覧いただいた上で、投資家ご自身の判断で行うようお願いいたします。「新株式発行並びに株式売出届出目論見書」(及び訂正事項分)は引受証券会社より入手することができます。また、本記者発表文に記載されている当社の計画、見積もり、予測、予想その他の将来情報については、本記者発表文の作成時点における当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、経済状況の変化、市場環境の変化及び他社との競合、外国為替相場の変動等により、本記者発表文の内容又は本記者発表文から推測される内容と大きく異なることがあります。